



教員 おすすめ 図書

城西大学水田記念図書館

■ 学長 森本雅憲先生

宇宙は何でできているのか

：素粒子物理学で解く宇宙の謎

村山斉 著／幻冬舎 429.6//Mu62

今からもう60年以上も昔の話になりますが、夜空を見上げて、光り輝く星のその美しさと、火星などには奇妙な姿の火星人が住んでいるなどと思い描き、何時の日かロケット技術の進歩で行けるかもしれないと考えていました。真空の世界についての実感など全く無く、無というものを漠然と信じていましたが、今日の広大な宇宙の誕生、さらにはその活動をも説明する法則の詳細を研究する宇宙物理学と、微細の世界で成り立つ法則を研究する素粒子物理学が、根っここのところで結びついていることが認められてきているとは、門外漢にとっては只々驚嘆するのみであります。

これらの新しい研究成果を、『宇宙は何でできているのか—素粒子物理学で解く宇宙の謎—』の中では、専門外の人に可能な限り平易に(数式等を用いていないのが素晴らしい)説明し、物理学の進歩を指し示しながらも、今なお限りなく存在する課題を指摘しつつ、これからの宇宙の運命、地球誕生の秘話を書き記しており、多少とも星空の生成に興味(「自分たちの暮らす宇宙」のことを知りたいという気持ち)を持っている人にとっては、本書は格好の入門書であり、さらなる興味の膨潤へ向けて、大いに参考になること請け合いです。

宇宙は無数にあるのか

佐藤勝彦 著／集英社 443.9//Sa85

興味が拡大したところで、『宇宙は無数にあるのか』をお奨めします。先の本にも出てきます、「ビッグバン」に至る過程を説明する考えの一つに「インフレーション理論」があり、その提唱者の一人が日本人の著者、佐藤勝彦氏であります。宇宙に関するお話ですから、多くの専門用語が2冊の本で共通していますが、縦糸と横糸のように絡み合っており、読み合わせると定性的な理解が深まるものと思います。この本で特に興味が高まったのは、地球に生命が誕生し存在することに、地球を取り巻く宇宙環境(例えば、今の重力が僅かでも強かったとしたら人類は生まれていない?)が最適な状態にあるという指摘です。



光と物質のふしぎな理論

：私の量子電磁力学

R.P.ファインマン 著／釜江常好, 大貫昌子 訳／岩波書店
421.3//F23

先に示した2冊は、物理学の最新の専門的な進歩を、かなり平易に述べたものですが、R.P.ファインマンが著わした『光と物質のふしぎな理論—私の量子電磁力学—』は、ノーベル賞受賞者である著者が、自分の専門分野である量子電磁力学を、かなりの努力をして、物理学が全然わからない一般知識人に、量子(粒子と波の性質を有するもの)ということを解説したものであり、優れた研究者の熱意が感じられる記録です。こちらを先に読む方がBetterでしょうか？



図書館長 橋本フミ恵先生（薬学部薬科学科）

前へ!前へ!前へ!

: 足立区の落ちこぼれが、
バングラデシュでおこした奇跡。

税所篤快 著／木楽舎 335.8//Sa22

中学生のころに「カンボジアに井戸を贈ろう」というプロジェクトに入り、送ったはずの井戸が、4年後に現地へ行くと涸れていて、全く使われている形跡がない現実を知る。「教育でイノベーションを起こし、世界を変えること」を目標に、バングラデシュで、IT を用いて優秀な予備校講師による遠隔授業を実現し、貧しい地方の学生達に教育革命を起こした若い男性の体験記である。

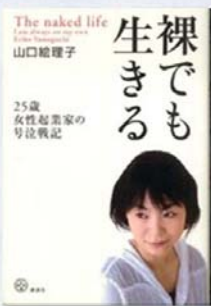


25歳女性起業家の号泣戦記

(講談社 BIZ. 裸でも生きる 1)

山口絵理子 著／講談社 589.27//Y24

子供の頃にいじめにあった体験などから、教育の重要性を確認し、世界の子供たちを救いたいと、アジア最貧国のバングラデシュへ。そこで外国からの援助が末端まで届かない現実を知り、起業を決意する。現地で裏切りなどにあいながらも、「君はなんでそんなに幸せな環境にいるのに、やりたいことをやらないんだ」の言葉を胸に、文字通り体当たりで起業した若い女性の奮闘記である。



図書館副館長 関俊暢先生（薬学部薬学科）

われ思うゆえに思考実験あり

: 最新科学理論がもたらす究極の知的冒険

橋元淳一郎 著／早川書房 404//H38

アインシュタインの相対性理論の入門本を読んだことがある方なら、光速に限りなく近い速度で走行する列車に乗って、様々な実験を試みる記述は、馴染みのものと思います。思考実験は、極限的な状況を想定し、自身が持つ科学の原理を頼りに結果を予測する、科学的思考に関するトレーニングです。何といっても、思考実験はただですから、皆さん思考実験で科学者としてステップアップを！！



経済学部経済学科 石川共平先生

キャリア教育のウソ

児美川孝一郎 著／筑摩書房 366.29//Ko64

キャリア教育って何？「やりたいこと探し」「キャリアプラン」重視のキャリア教育を批判し、それぞれのライフキャリアと向き合い、仕事と生活をどう両立させ、どう折り合いを付けていくのかという現実的視点からキャリア教育を考えていることに共感しています。卒業後も「学び習慣」を身につけ、キャリアデザインマインドをもって行動することが大切。



ブラックバイト

大内裕和, 今野晴貴 著／堀之内出版 366.8//091

あなたのバイト、ブラックではありませんか？サービス残業当たり前。シフト変更を申し出ても認めてくれず学業に影響も。休みもとれず、辞めたくても辞めさせてくれない。そんな経験ありませんか？ブラックバイトは社会の縮図。社会に出てブラック企業に潰されないために、今から対処法を身に付けておくためのお助け本です。

経済学部経済学科 神崎直美先生

明治人の力量

佐々木隆 著／講談社 210.08//N71//21

世界を帝国主義の嵐が吹き荒れていた明治時代は、日本が欧米諸国に肩を並べてゆくために、不羈独立した国家を形成すべく、先人たちの壮絶な努力がありました。

その様子を徹底した実証主義で明らかにした著作です。当時の日本が直面していた真の事実を世界の動向と共に知り、皆さんの歴史認識の糧にしてほしいです。



美しく愛 (かな) しき日本：歌集

岡野弘彦 著／角川書店 911.168//045

日本人が古代から連綿と継承してきた短歌は、人々の心を紡いだものです。文語短歌ならではの調べの美しさと濃密さを味わいつつ、昭和の戦争と敗戦、および東日本大震災に対する著者の思いに添いながら、学生の皆さんが未来に向けていかに生きてゆくべきか、考えてみるきっかけになることと存じます。



舟を編む

三浦しをん 著／光文社 913.6//Mi67

辞書の編集を軸に4人の人物が登場します。辞書の編集に人生をかけた研究者、専門知識を期待されて抜擢された編集者、周囲の人々を気遣う心を持ちながらも辞書作りに情熱を感じられない編集者、花形部署から辞書編集部に異動となり左遷されたように感じている編集者。それぞれが苦悩しながらも、職場における自己の存在意義を見出し、仕事に情熱をそそいでゆく姿が描かれています。社会に出たら苦悩はつきもの。仕事で悩んだ時に思い出していただければ、心の支えになる一書と存じます。



太郎物語；大学編

曾野綾子 著／新潮社 913.6//So44

長いようであつという間の大学生活。実り豊かな日々となるか否かは、皆さん次第です。主人公の太郎君は一年生。学び、遊び、考え、時には悩みながら、生き生きと日々を過ごしています。皆さんはどのような毎日を過ごしていますか。同世代の太郎君の日常だからこそ、大学生活をいかに過ごすべきかの示唆が得られる一書と思います。

みをつくし料理帖 全10巻／みをつくし献立帖

高田郁 著／角川春樹事務所 913.6//Ta28

幼い頃に故郷の大坂で水害により両親を亡くした主人公の滯が、江戸で料理の道に奮闘する姿を描いた歴史小説です。努力を尽くすにもかかわらず、繰りかえし遭遇する理不尽に苦しみ絶望に陥りながらも、自分が選んだ料理の道に突き進んでいく様子は、清しく実に天晴れです。滯が考案した料理はとてもおいしそう。食いしん坊な方、読み味わってみてください。この本と出合った契機は、2014年末に大学時代のサークルの仲間と会食した際に読書談義が盛り上がり、私がきつと好きそうな本として先輩がお勧めくださいました。読み始めると魅了されて全10冊を一気に読了しました。お仲間での読書談義も良書に出会える良い機会ですので、併せてお勧めいたします。

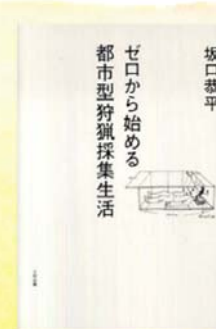


経済学部経済学科 小山真理子先生

ゼロから始める都市型狩猟採集生活

坂口恭平 著／太田出版 368.2//Sa28

〈都市の幸〉で暮らす一。『0円ハウス』『隅田川のエジソン』で話題の、自称『建てない建築家』坂口氏による、目からウロコの都市生活方法論！高い解析度を持った目で都市生活を見つめ直すことで、自分の何気ない日常を改めて振り返ることができるでしょう。



青が散る

宮本輝 著／文藝春秋 913.6//Mi77

新設大学のテニス部員たちを主人公とした、「定番中の定番」ともいえる青春小説。若さの持つ喜びや悲しみ、輝きや苦渋などが、今まさに学生生活を謳歌する皆さんの胸にストレートに響くと思います。大学時代の今読まなくていつ読むの？という一冊です！

経済学部経済学科 小山修平先生

競争力

三木谷浩史, 三木谷良一 著／講談社 304//Mi24

みなさんは「経済学を学んでいったい何の役に立つのだろうか」と疑問に思ったことはありませんか？これは経済学を学ぶものならだれもが一度は考えることです。本書はこの疑問に楽天の三木谷社長がアプローチしています。対談者が彼の親で経済学者である三木谷良一氏である点も興味深いですね。



経済学部経済学科 清水昭男先生

天才!: 成功する人々の法則

マルコム・グラッドウェル 著／勝間和代 訳／講談社

159//G48

「天才＝成功者は状況の産物である」という主旨の本で、いわゆる「How to」ものではありません。「個人の努力・才能」という変数をゼロとして天才という方程式を解くとうなる、、、。作者の頑なな理論展開が本当に楽しい一冊です。



フラット化する世界

: 経済の大転換と人間の未来 上・下

トーマス・フリードマン 著／日本経済新聞出版社

361.5//F47//1

経済格差を前提としたグローバル化ではなく、標準化が前提となってくる 21 世紀的なグローバル化を観察／展望した一冊です。2004 年までの「世界同時経済成長」を背景に書かれていますが、ここで示されている方向感把握しておきたいですね。



フリー：「無料」からお金を生み出す新戦略

クリス・アンダーソン 著／日本放送出版協会 675//A46

裾厚(Fat Tail)の時代のマーケティング戦略をセンセーショナルなタッチと実例でまとめ、富を生み出す背景変化を解説した一冊です。発売と同時(米国 2009 年)に、ビジネス界では Must Read として意識され、一般図書としても Best Seller となりました。



マンガ学：マンガによるマンガのためのマンガ理論

スコット・マクラウド 著／海法紀光 訳／美術出版社
726.101//Ma13

マンガと Comics は必ずしも同じではないので、訳書のタイトルは不正確だと思いますが、連続するコマ(絵)を読者のイマジネーションに依存してつなげていくことによって、最終的にストーリーを紡ぎ出そうとする点で、両者は同じです。連続する不安定な飛び石を渡った読者が、最終的に一様な印象を得るといふこのアートフォームには、メッセージを正確に／効果的に届けるための「お約束(理論)」が存在します。



経済学部経済学科 場勝義雄先生

ニュースがわかる／しくみがわかる

(池上彰のやさしい経済学 1,2)

池上彰 著／テレビ東京報道局 編／日本経済新聞社

331//I33//1~2

著者がかつて京都の芸術系大学で行った集中講義「経済学」(14 回シリーズ)がもとになっている(TV 番組でも放映されました)。その内容は「金は天下の回り物」にはじまり、経済学の祖と言われるアダム・スミスやケインズの考え方などの紹介、「政府か日銀か」と題する財政政策や金融政策のこと、円高と産業空洞化、年金や消費税の問題、リーマンショック、戦後日本経済史などわかりやすく解説していますので気軽に読める本だと思います。(1,2 年生向け)



経済は感情で動く

マッテオ・モッテルリーニ 著／泉典子 訳／紀伊国屋書店
331//Mo95

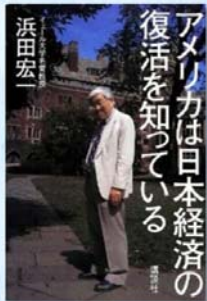
経済学に心理学を融合したことで2002年ノーベル経済学賞を受賞したのはダニエル・カーネマンでありその後「行動経済学」として知られるようになった。この書を読めば、経済学って、こんなに人間的で面白い学問だったのか。経済の主体であるところの人間の行動、その判断と選択に心理学の視点から光を当てる。そこに見えてきたのは、合理性とは似つかない「人間的な、あまりに人間的な」一面。クイズ形式で楽しい本です。(2,3年生向き)



アメリカは日本経済の復活を知っている

浜田宏一 著／講談社 332.107//H22

東京大学での教え子、元日本銀行総裁・白川方明への糾弾の書でもある。20年もの間デフレに苦しむ日本の不況は、ほぼすべてが日銀の金融政策に由来すると著者は述べる。アダム・スミス以来、200年間経済界の泰斗たちが営々と築き上げてきた理論を無視するものであるという。ここで解説する理論は、著者一人だけが主張するものではなく、ほとんど世界中の経済学者が納得して信じ、アメリカ、そして世界中の中央銀行が実際に実行しているものであるという事が分かるのではないだろうか。(3,4年生向き)



経済学部経済学科 勝浦信幸先生

20歳のときに知っておきたかったこと

ティナ・シーリグ 著／高遠裕子 訳
／阪急コミュニケーションズ 159//Se15//勝浦

本書は、スタンフォード大学での起業家育成のための講義をまとめたものですが、自分の脳を開放して、発見力、発想力、創造力を高めるヒント、そして人生を面白くするヒントがたくさん詰まっています。

内容もわかりやすくでどんどん読み進めます。

もしかしたら、学生の皆さんの人生を変えるかもしれません。ぜひ、読んでみてください。

プロフェッショナルの条件

：いかに成果をあげ、成長するか

P.F.ドラッカー 著／上田惇生 編訳／ダイヤモンド社

159.4//D92//青山

本書は、ドラッカーの著書10点と論文1点から、そのエッセンスを抜き出し編集したものです。「はじめて読むドラッカー」との副題がついているとおり、とてもわかりやすく、よくまとめられています。

ドラッカーは、まずこの一冊から！



無名戦士たちの行政改革 : WHY NOT の風

WHY NOT メンバー 著／澤昭裕 編

／関西学院大学出版会 318//W69

本書は、自治体の長をはじめとした行政内部からの改革はもとより、市民からの行政改革、メディアからの行政改革の実践についても、それぞれの立場から書かれています。

公務員を目指す学生だけでなく、将来、地域の一市民となる学生にも、ぜひ一読をお勧めします。

監修は、NEWS ZERO のメインキャスター村尾さんです。
ちなみに、私も3章を書かせていただいています。



父が息子に語るマクロ経済学

齊藤誠 著／勁草書房 331//Sa25

本書は、最初から最後まで、父と息子の対話形式で書かれています。とても読みやすいと思います。

ただ、書かれている内容は、次第に高度になっていきます。少し難しい数式なども登場しますが、「難しいな」と思ったら、そこは読み飛ばしてもいいと思います。

里山資本主義 : 日本経済は「安心の原理」で動く

藻谷浩介, NHK 広島取材班 著／角川書店

332.107//Mo82//長谷川啓

本書は、「デフレの正体」に続く、藻谷さんの第2のベストセラーとなる本です。マネー資本主義、アメリカ型資本主義から脱却し、真に豊かな生活を送るためにはどうすればいいのかを示唆してくれます。

とても読みやすいのでお勧めです。



私たちはどうつながっているのか

: ネットワークの科学を応用する

増田直紀 著／中央公論新社 361.3//Ma66

人は一人では生きていけません。家族、友人だけでなく、好むと好まざるとにかかわらず、社会に出れば多くの人たちとのつながりが生まれます。

本書は、人と人とのつながりをネットワーク論によって分析し、日常生活への応用について書かれています。



地方経済を救うエコノミックガーデニング ： 地域主体のビジネス環境整備手法

： guide book for economic gardeners

山本尚史 著／新建新聞社 601//Y31

本書は、持続的な地域経済発展のヒントが書かれています。

オレゴン州ビーバートン市の具体的な取組事例の紹介や、日本の地方自治体で実践する場合の課題などが、まとめられています。



経済学部経済学科 小林孝雄先生

市民科学者として生きる

高木仁三郎 著／岩波書店 289.1//Ta29

大学や政府系の研究機関、あるいは原子力利用を推し進める側の企業と対峙する立場から、原発や放射性物質の危険性を世界に訴え続けた核化学者の、自伝的な著作です。将来を嘱望されながら、あえて体制側を飛び出して、市民科学者としての立場を貫いた生き方に、感銘を受けます。



有害化学物質の話：農薬からプラスチックまで

井田徹治 著／PHP 研究所 498.4//I18

共同通信社の記者として、世界の各地取材して回った著者は、現在世界中で起こっている様々な環境問題を広くかつ深く掘り下げ、丁寧な取材を重ね、読者にわかりやすい表現で伝えてくれます。その中の一冊で、2013年に公刊された本です。



地球環境報告 1,2

石弘之 著／岩波書店 519//I71//1~2

ジャーナリストとして世界の各国、各地域の環境の変化を見てきた著者が、地球上の環境変化に起因する様々な問題を、幅広い視点からわかりやすく解説した本です。



経済学部経済学科 玉城逸彦先生

文系でもわかるビジネス統計入門

内田学, 兼子良久, 齊藤嘉一 著/東洋経済新報社

336.1//U14

学生の皆さんの中には、統計学と聞いただけで避けてしまう人もいます。しかし、社会人になると、マーケティングやファイナンスなど様々な仕事で統計が活用されています。分散・標準偏差、回帰分析、相関分析などを社会人になってから勉強し直す人も少なくありません。大学で統計に関する知識を深めておくことは決して無駄にはなりません。本書はアイスクリームと気温の関係、コンビニの売上げの変化、など身近で分かりやすい事例で統計の理解を深められる入門書です。



パンダをいくらで買いますか?

: ストーリーで学ぶファイナンスの基礎知識

野口真人 著/日経 BP 社 336.8//N93//玉城

パンダをいくらで買うか? この問いに答えるのがファイナンス理論です。この本は、パンダの値段や会社の値段をどのように評価するかを分かりやすく解説した入門書です。証券・金融業や不動産業をめざす学生にはぜひ読んでほしいと思います。



日本銀行(ちくま新書)

翁邦雄 著/筑摩書房 338.41//052

2013年4月、日本銀行は、デフレ脱却に向けて大きく舵を切り、大胆な金融政策を実施し、これが、円安・株高、金利低下に影響し、企業業績の回復や消費の拡大に寄与するようになっていきます。そもそもわが国の中央銀行である日本銀行はどのような目的で、いつ設立されたのでしょうか? 日本銀行の実施する金融政策とはどのようなものなのでしょうか? 今、実施されている量的緩和政策はどのような政策なのでしょうか? 本書はこうした疑問にわかりやすく答えてくれます。



経済学部経済学科 富貴島明先生

不可能性の時代

大澤真幸 著/岩波書店 304//074

社会の本質を深いところから読み解く社会学者が書いた、知的興奮を誘う本である。戦後の日本社会が、理想の時代、虚構の時代と続き、現在は不可能性の時代にあるという。原理主義と多文化主義のせめぎ合いで、自分を根拠づける拠点が喪失し、なにごととも不可能になっているという。社会が混沌とし、少年による犯罪が多発する理由も、この不可能性にあるという。おもしろいが、難解な本でもある。



下流社会第2章：なぜ男は女に"負けた"のか

三浦展 著／光文社 361.8//Mi67//2

学生諸君が、「下流」にならないためにも読むべき本である。下流の特徴として、不安感が強いこと、ボーとしていること、体力に自信がないこと、面接を受けることが苦手なこと、コミュニケーション能力が低いこと、ロリコン気味なこと、地元志向が強いこと、ナショナリズム的傾向が強いことなどがあげられている。下流になるほど、正社員にもなれないし、結婚もできないという。社会階層を、鋭く分析した好著である。



現代政策学部社会経済システム学科

飯塚智規先生

来るべき民主主義

：小平市都道 328 号線と近代政治哲学の諸問題

國分功一郎 著／幻冬舎 318.8365//Ko45

議会制民主主義には、行政権に係わる仕組みがない!本書は、筆者が係わった地元の住民活動や道路問題を通して、民主主義と行政の仕組みの今日の問題を明らかにしている。

震災復興における被災地のガバナンス

：被災自治体の復興課題と取り組み

飯塚智規 著／芦書房 369.31//I28

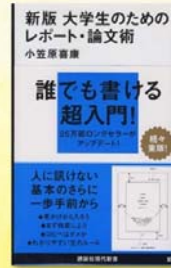
震災からの復興のためには、地元行政や被災者、ボランティアや NPO、国や近隣自治体などの様々なステークホルダーが政策に係わる必要がある。本書から彼らの様々な活動を理解してもらいたい。



大学生のためのレポート・論文術

小笠原喜康 著／講談社 816.5//022//于

大学生、そして社会人のにとって必須の能力の一つとして、文書作成がある。本書はレポート論文を書くための、お作法から始まり、執筆手順や資料収集方法も網羅されている。



「昔はよかった」と言うけれど

：戦前のマナー・モラルから考える

大倉幸宏 著／新評論 150.21//057

時代をさかのぼって、戦前のモラルやマナーについて知りたい人はぜひ、読んでください。一読の価値あります。

世界名言集

岩波文庫編集部 編／岩波書店 159.8//195

言葉の持つ深さを味わうことができる書籍です。この名言集を通して、多くの言葉に出会ってください。



現代政策学部社会経済システム学科

真殿仁美先生

あなたのその苦しみには意味がある

諸富祥彦 著／日本経済新聞出版社 146.8//Mo77

誰も苦しみを経験していますね。その経験している苦しみには意味がある、と著者は本書の中で述べています。人はさまざまな苦しみを通して、自己変容の道へと歩み出していくそうです。本書から苦しみの意味を悟ってください。

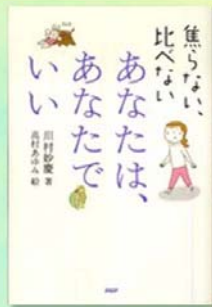


あなたは、あなたでいい：焦らない、比べない

川村妙慶 著／高村あゆみ 絵／PHP 研究所

188.74//Ka95

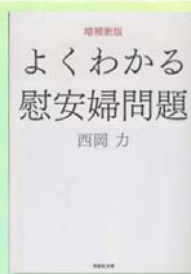
辛いとき、しんどいとき、または心のバランスを崩しそうになったとき、本書を手にとりて読んでみてください。



よくわかる慰安婦問題

西岡力 著／草思社 210.75//N86

きわめて丁寧に検証し、知らなかった事実を発信している書籍です。ぜひ読んでみてください。



世界はなぜ社会保障制度を創ったのか

：主要9カ国の比較研究

田多英範 著／ミネルヴァ書房 364.02//Ta16//真殿

「社会保障制度とは何か」という根本的な課題を解き明かしたくなったらぜひ、この書籍を読んでください。

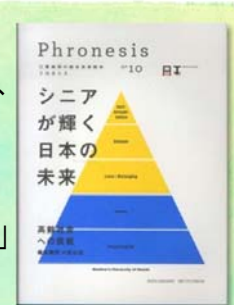


シニアが輝く日本の未来

三菱総合研究所 編著／丸善プラネット 367.7//Mi63

本書には「プラチナ社会」を構築していくためのヒントがたくさん示されています。なかでも、マズローの欲求5段階説を超高齢社会の文脈にあてはめてとらえなおしている点が興味深いです。この本を読んで一緒に「プラチナ社会」について考えていきましょう。図表や写真がふんだんに盛り込まれ、読みやすい書籍ですよ。

『Phronesis』シリーズは、他にも多数刊行されています。



2030年超高齢未来 破綻を防ぐ10のプラン

東大ジェロントロジーコンソーシアム 著／東洋経済新報社

367.7//To46

超高齢社会をどのように受けとめ、考えるべきかを指し示す良書です。読後は“高齢”の概念ががらりとかわるでしょう。



街場の教育論

内田樹 著／ミシマ社 370.4//U14

現代社会において「教養」とは一体、何を意味しているのでしょうか。また「専門」や「専門家」という言葉は、どのように解釈すればよいのでしょうか。本書はこれらの言葉について、丁寧に解説しています。ぜひ読んでみてください。著者による『街場』シリーズはこの『教育論』以外にも、『中国論』や『アメリカ論』などもあります。

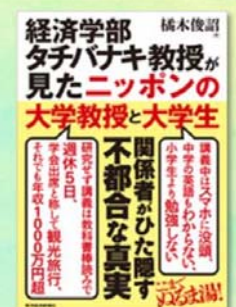


経済学部タチバナキ教授が見た

ニッポンの大学教授と大学生

橋本俊詔 著／東洋経済新報社 377.1//Ta13

帯の表現が強烈だったので、手に取ってみました。著者は本書の中で「大学」という知の拠点を、批判的に検証しています。厳しい言葉が並んでいますが、大学がいま、どのような状況に置かれているのかを知るには、興味深い書籍です。



知のバリアフリー：「障害」で学びを拓ける

嶺重慎, 広瀬浩二郎 編／京都大学学術出版会

378//Mi43

本書は、大学が「障害」や「障害学生」とどのように向き合っていくのか、について考えさせてくれます。「支援を乗り越えて、知のバリアフリーを目指す」とは一体、何を意味しているのでしょうか。本書から「「障害」で学びを拓ける」(副題)機会につなげていってください。



神戸事件

内山正熊 著／中央公論社 210.61//U25

明治政府の欧米に対する土下座外交批判、当時の岡山藩士を無実の罪で切腹させた弱腰外交、今の日本政府の対米追従外交と似ている。参考になる。

スモールイズビューティフル

E.F.シューマッハー 著／講談社 331.04//Sc8

著者はドイツ人でありながら、イギリス石炭庁のトップになり、地球資源の限界を予告した。「ローマクラブ」の提言のもと、ノーベル経済学賞に上がったが、心臓まひで急死した。



自由と規律

池田潔 著／岩波書店 372.33//I32(赤松文庫)

イギリスの高校、大学で学んだ著者が日本の若者あてに書いた警告書。日本人は、自由は求めるが責任は取らないケースが多い。自由には厳しい規律が必要と説く。



楊家将 上・下

北方謙三 著／PHP 研究所 913.6//Ki65//1-2

この本を読むと本当に楊業という1人の生き方がステキで史実とはかなり違って素晴らしいとしか言えませんでした。あこがれてしまいます。こんな生き方が出来たらと考えてしまいます。



インフェルノ 上・下

ダン・ブラウン 著／KADOKAWA 933.7//B77//1-2

ストーリーも楽しいのですが、何よりも、人口問題はこんなにも人の心を悩ますのかと考えさせられました。人の選択や善意の否定の難しさを知ることが出来ます。



政策学入門

真山達志ほか 著／法律文化社 301//N72//庭田

今年、教科書にしようと考えたが値段が少し高く、学生に買わせるには厳しいかと思いましたが、内容もわかりやすくまとめ、読むたびに新しいことを考えさせられる本です。



経営学部マネジメント総合学科 佐竹博先生

日本のもの造り哲学

藤本隆宏 著／日本経済新聞社 509.21//F62

技術で勝ってビジネスで負ける。日本の家電産業にみられる現状である。日本のもの造り産業が生産技術に代表されるように営々現場を鍛え上げてきたが、その割に利益が出ていない。強い工場、強い本社というあるべき姿を詳説している。日本の産業論を理解する一助となる書籍です。



電子立国は、なぜ凋落したか

西村吉雄 著／日経 BP 社 549.09//N84

アップルもレノボも鴻海も生み出せなかった日本電子産業。かつて世界を席卷し、自動車産業とともに日本経済を牽引してきた電子産業。日本電子産業に加わった4つの圧力に対応できなかった。日本の高齢化社会の問題解決にイノベーションを起こすICTへの期待は大きい。日本電子産業の現状を解明し、今後の方向を示唆してくれる書です。



経営学部マネジメント総合学科 持丸邦子先生

マルコポーロ東方見聞録

月村辰雄,久保田勝一 訳／岩波書店 292.09//P77

有名な書物を実際に読むことは案外ないと思いますが、読んでみると、たくさんの面白い発見があります。日本には来たことがなかったけれど、日本を“ジパング”として紹介している箇所、また、たくさんの中国の地名が出てきて、現在の姿と比べるのも面白いです。食習慣、偶像崇拜の有無に関心が深かったことも読み取れます。



「悪意の情報」を見破る方法

シェリー・シーサラー 著／飛鳥新社 404//Se15

著者はカリフォルニア大学サンディエゴ校で科学の研究成果を一般人に説明する手法を科学の専門家に教えています。日本語訳の発行は2012年8月。ちょうど原発事故によって科学に対する正しい見方を求めている時に発行されました。その後、STAP論文や薬の臨床実験で不正が明らかになり、ますます、科学への正しい見方が問われる時代に読んでおくと役に立つ本です。



プロメテウスの罠 検証！福島原発事故の真実

朝日新聞特別報道部 著／学研パブリッシング

543.5//A82//2

東日本大震災から3年が過ぎましたが、被災地の復興は地域によって、その進度に格差があり、復興の進んでいる所の報道にばかり触れていると実感が伝わらなくなってしまいます。特に原発事故については、事実上、事故は収束していないのにも関わらず、真相が見えません。この本は、朝日新聞での連載記事を最初から編集少し加筆したものを順次、単行本にまとめていっているもので現在も新聞の連載は続いています。過去の真相から直近の状況までをまとめて知ることができます。



経営学部マネジメント総合学科 吉田博行先生

夜と霧-ドイツ強制収容所の体験記録

- (フランクル著作集 1)

V.E.フランクル 著／霜山徳爾 訳／みすず書房

140.08//F44//1

この本には、さまざまな問題が山積みしています。とても売れている文献。これは読まなくてはならないと思います。



仕事人が人をつくる

小関智弘 著／岩波書店 366.29//Ko83

町工場の工員をしながら本を書く人の本。仕事人が人をつくる。とても珍しいタイプの著者。薦めます。



わしの眼は十年先が見える：大原孫三郎の生涯

城山三郎 著／新潮社 913.6//Sh89//吉田(博)

岡山県倉敷の大原孫三郎と石井十次とのつながり。経営を学ぶ人に読んでほしい文献です。



理学部数学科 神島芳宣先生

朝2時起きで、なんでもできる!

: Trust your intuitive heart 1,2,3

枝廣淳子 著／サンマーク出版 159//E21

若者は朝が苦手という傾向にもかかわらず、城西大の学生は意外と朝早く、勤勉である。この本をみて、朝早く(から)何を順序立て日々の生活のバイオリズムを作るか役立つかもしれない。学生の一部は通学に時間がかかる、実際2時から起きて予習復習をすることは若い時なら可能だろう。ただ数学のようにいつ結論、結果が出るかわからない学問では短期間での予定は立たず、この本のやり方は利用出来ないが、自分の専門に多くの時間を割くために他のことをどのようにうまく調整すればよいか参考になる。



ナツコ：沖縄密貿易の女王 (文春文庫[お-28-2])

奥野修司 著／文藝春秋 289.1//056

終戦直後の沖縄と沖縄の人は日本全体もそうであったように想像を絶する苦難に見舞われていた。どうやって食料を得、生き延びたか戦争の経験のない自分には想像もつかない。しかし、どんな時も必ず苦境を克服してくれる英雄がいた。いや沖縄だけ？に、女傑がいた。よく考えると沖縄の島々(糸満、与那国)からは台湾、香港、フィリピンの東南アジアのほうが東京、大阪より近い。ナツコさんは優しさや“したたかさ”をもって、戦後の5年間沖縄の生活を守った。



つきあい方の科学

：バクテリアから国際関係まで

(Minerva21 世紀ライブラリー 45)

R. アクセルロッド 著／松田裕之訳／ミネルヴァ書房

361.4//A97

コンピュータ シミュレーション技法(ゲーム理論)で社会の秩序をどう考えるかの本。色々な権謀術を科学的に分析することを目的とする。伝統的な手口が理論的に科学用語で解釈されると個々のケースがモデルとして定式化され、それと違うことを行うことは例外とみなされる。少数派は例外グループに配属され、差別を受けるがだんだん増えてくると市民権を得て、新たにモデルとして意味を持つ。しかしこのような方法論はその後引き継がれ、社会学での研究の一つの方向性を提供した。



社会的ジレンマのしくみ

：「自分1人ぐらいの心理」の招くもの

(セレクション社会心理学 15)

山岸俊男 著／サイエンス社 361.4//Y23

個人主義と自分勝手、相手に迷惑をかける、相手から被害を受けるのは自分が社会の一員である限りやむを得ない。社会で共存するためには、また心地よく生きるには、最小限の迷惑で、どう対処すべきか考える。沖縄の基地問題、福島原発、地域紛争、環境問題、人口増加・減少問題、一部の人たちがそれらを先延ばして現実に向き合わない社会は破滅に向かうのか今や地球単位でのジレンマに陥っている。なんでも他人事にするこの社会をどうするか、読んで政治に関心を持ってほしい。

サンダカン八番娼館：底辺女性史序章

山崎朋子 著／筑摩書房 367.21//Y48

学生の頃この作品の映画を見て、それから約20年経って熊本に住んでいた時初めて天草に行き、“からゆき”と呼ばれたおサキさんがここで人目を避けながら最後を遂げた場所かと思うと、申し訳ない悲しい気持ちしか残らなかった。従軍慰安婦問題は国際的に根深く、焦点となつてはいるが、特に自国の兵隊のために、海外で娼婦となった人たちの真実はこのような小説の記録がなければ永久に闇のままだろう。戦争犠牲者は生きて帰ってきても安らぎの場所はない。

サンダカンの墓 (文春文庫)

山崎朋子 著／文藝春秋 368.4//Y48

サンダカン八番娼館が映画になった時、ターキー（水の江瀧子）がボルネオのサンダカン町の娼館の女将の役をやっていた。確かに日本に戻らなかった彼女たち戦争の犠牲者の墓は「日本に背を向けて建てよ」という女将の回想シーンがあった。この本をみても、なぜそうしたのか自分にはわからない。日本に戻った娼婦の多くはおサキさんのような境遇であった。当時九州の農村部（特に天草、島原）の若い女性は口減らしのため、東南アジアに売られ、決して報われることのない犠牲を強いられた。なぜ戦争をしなければいけないのだろうか。

忘れられた日本人 (岩波文庫 青(33)-164-1)

宮本常一 著／岩波書店 382.1//Mi77

日本人のいいところ、それらがだんだん忘れられ、かつての日本社会は空きマンションのように地方から空洞化している。洗練された日本、落ちたリンゴは売り物にはならない。日本製をどれだけ持っているか今や世界のステイタスかもしれない。この本は日本近代民俗学、本当の裏話であり、かつて全国各地でたくましく生きた人々の生活を思い、回顧するのもよいし、あるいは今からもう一度日本人再生を考えるための指針にもなる。



統計でウソをつく法

： 数式を使わない統計学入門

(ブルーボックス B-120)

ダレル・ハフ 著／高木秀玄 訳／講談社

408//B59//120

最近のコマーシャルには、製品に効果があることを数人の人たちを登場させて、様々な成功例と思われる美談を聞き出し、その製品の購入を勧めるものがある。この本によれば、特定の5人による結果と不特定の1000人のサンプリングによる結果も同じになる統計学の技があることを、様々な例から導いてくれる。もちろん、売り手側も反例があるのを知っているのでこの統計的証明には間違いがあるということを画面の隅に小さく「使用効果には個人差があります」と説明している。この本が書かれてから50年以上たっても、真実を伝えているのは統計学がウソをつかないことを示しています。

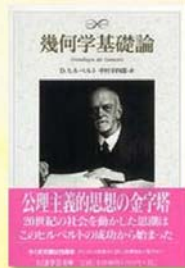


幾何学基礎論 (ちくま学芸文庫 [ヒ-8-1])

D. ヒルベルト 著／中村幸四郎 訳／筑摩書房

414//H58

もし眠れないとき、これを読むことは比較的早く眠りにつけるので眠りのために推薦する。一切感情を捨て、ただひたすら約束(公理)のもとで論理的に議論し真理を導く。それは宗教よりも高尚である。何が楽しくてこのような数学をやるのだろうか。そこには、嘘も詭弁も会話もなくただ永遠の真理の世界のみが存在する。そこは恐ろしく静寂で青くみえる空間である。人に会い、この本で覚えたことをすぐ人に話さないと怖くなる。



アメリカの詩を読む (岩波セミナーブックス 75)

川本皓嗣 著／岩波書店 931//Ka95

マニアックかもしれないが、初めてアメリカだけの詩を読む人、その人にとっては入門書。比較文学の著者が詩の作成の定義(ルール)、詩の解釈を丁寧に説明してくれる。それは入門書以上のものである。アメリカ詩人の自由奔放な詩の世界にゆっくりと浸かってみると、自分の普段の会話がいかに品のないものか恥ずかしい。目をつぶって西洋、アジアとも違う楽しく深遠なアメリカ情感を本の一時電車の中で味わうことができる。



Mathematicians under the Nazis

Sanford L. Segal／Princeton University Press

410//Se16

ヒトラーのナチ政権のもと、科学者の生活はどうだったのだろうか。そもそも数学は世の中の生活とは無縁の代物だから、戦時下何も影響はないだろうと思うかもしれない。

ヒトラーとナチのゲシュタポ精鋭たちにとって数学などは眼中にもなかったのだろう。しかし、第2次世界大戦はすでに情報戦争の始まりだった。ナチスが次にどこを攻めるか前もってわかっていたら、連合国の犠牲は最少で、逆に(顕著な例として)戦艦大和の最後のように、奇襲はいとも簡単に相手国に致命的な損害を与えることができる。連合国は果たして数学を最大限利用し、暗号解読を行い勝利に導いた。

Mathematicians fleeing from Nazi Germany : individual fates and global impact

Reinhard Siegmund-Schultze / Princeton University Press
410.28//Si2

ナチの台頭につれてヨーロッパの科学者は戦争を避けるべく主として米国に避難あるいは亡命した。ドイツの数学者に関していえば、ナチであった数学者はドイツ国内に残り、多数のユダヤ系数学者はドイツを離れた。ヨーロッパはそれまで明らかに数学の中心であったのが、2 回の大戦を経て米国があつという間に数学の中心になってしまった。その受け入れの理由は単に米国人のヒューマニズム(おおらかさ)だけではない。巧みに能力・技術を彼らから獲得、将来の核戦争の盤石な基盤をつくることまで考えていたに違いない。1990 年後半では、ソビエトの崩壊とそれに伴うペレストロイカで沢山の優秀、あるいはそうでもない数学者はヨーロッパ、米国に拡散した。ナチに抵抗する数学者の当時の気持ちを戦争・弾圧という環境を通してみることは興味がある。意外と、イデオロギーを駆使することなく殺戮は嫌で、平凡を好み米国なら数学に没頭できるという単純な動機で移った数学者は結構いるのではないだろうか。

理学部数学科 小木曾岳義先生

「大発見」の思考法 : iPS 細胞 vs. 素粒子

山中伸弥, 益川敏英 著 / 文藝春秋 404//Y34

この本は、2008 年にノーベル物理学賞を受賞した益川敏英先生が、2012 年にノーベル生理学医学賞を受賞した山中伸弥先生に次々と鋭い質問をしていく形で、展開して行く、対話型の形式でまとめられている本である。この本の中で、特に面白かったのが、セレンビリティーについての議論と、失敗談である。(ちなみに、この本の出版は 2011 年で、この時、山中先生はまだ受賞をしていません。)



攻める健康法

:"守り"におさらば! たぎる肉体を取り戻せ

三浦雄一郎 著 / 双葉社 498.3//Mi67

大きな目標を達成するために、どの様に準備をし、どの様な心構えで望むかということが書かれている。登山に限らず全ての大きな目標にチャレンジしていくことに通じる内容が、大変ユーモアたっぷりの文章で語られている。幸運にも今年 3 月に著者にお招き頂く機会があり、80 代とは思えない若い考えと肉体をお持ちの方だと感じた。



理学部化学科 石川満先生

アメリカからの「宣戦布告」(GHQ 焚書図書開封 9)

西尾幹二 著／徳間書店 023.8//N86//9

日本は1941年に米国と戦争を始めて45年に敗北した。なぜ、日本(米国)は米国(日本)と戦争したのか。当時の日本の立場を著した書籍は米国の政策によって、終戦直後、日本国民の目から封印されてしまった。本書を含めた1~9巻には、日米開戦に至るまでの経緯を含む戦前の日本の国際的立場が克明に記されている。今日の米国の対日外交、TPP交渉など、における時代を越えた対日政策の根幹を理解するためにも本書(第9巻)は極めて有用である。

フーリエの冒険

トランスナショナルカレッジオブレックス 編
／言語交流研究所ヒポファミリークラブ 413.59//To66

本学生も含め、数学を使う立場の理工系なのに数学の学習に抵抗感を抱いている学生は少なくないでしょう。その原因のひとつは、一般に数学書の記述が無味乾燥なことが挙げられます。無味乾燥とは「定義あるいは公理→定理の証明→例題→演習問題」という流れであり、“なぜそのような考え方や方法が必要か”や“何がありがたいのか”といった十分な説明がないことを指します。本書は無味乾燥とは一味違う数学書なので、化学・薬学生に一読を薦めます。



理学部化学科 宇和田貴之先生

大東亞科學綺譚

荒俣宏 著／筑摩書房 402.8//A64

つい数十年前まで、科学はプロジェクトで行うものではなく、もっと個人的な営みであった。それゆえ研究者の個性を直接反映するものであった。本書ではそんな時代の日本の科学者として、アジア初のロボットを作った西村真琴、星新一の父で星製薬創立者の星一、不良華族にして鳥類学者・蜂須賀正氏などを紹介している。彼らの生き様に科学に魅せられたものに通底する爽やかさを感じとることだろう。

スパイス、爆薬、医薬品

：世界史を変えた17の化学物質

ペニー・ルクター、ジェイ・バーレサン 著／小林力 訳
／中央公論新社 430.2//L46

人類の歴史の各段階、例えば大航海時代、産業革命、帝国主義のそれぞれにおいて大きな役割を果たした“分子”をその構造式とともに解説している。歴史を化学の視点から見つめなおした良書である。同時に、天然物由来の分子の“発見”から需要が生まれ、その結果として天然物と全く同じか改良した分子を人類が合成することに成功した例の紹介にもなっており、化学史の観点からも示唆に富んでいる。



雪

中谷宇吉郎 著／岩波書店 451.66//N44

ファーブル『昆虫記』、ファラデー『ロウソクの科学』と並ぶ科学読物が、この中谷宇吉郎『雪』である。著者の天然雪の観察に始まる雪に関する研究を紹介した内容となっているが、興味を惹くのは研究そのものよりも、これを例に紹介される科学研究の「方法論」。テーマ選びから問題設定、実験、データのまとめ方、考察まで、一流の研究者がいかにして研究を進めるかを丁寧に見せてくれている。研究職に興味がある学生に推薦したい。



マネーボール

マイケル・ルイス 著／中山宥 訳
／早川書房 783.7//L59

アメリカ・メジャーリーグにおいて、選手能力の統計学的な解析(セイバーメトリクス)を採用したオークランド・アスレチックスのGM ビリー・ビーンを中心に描いたノンフィクション。仕事をする上では数字こそが最も重要で、数字を元に判断することで経験や勘に頼らない合理的なマネジメントが可能となる。この本が描くのはその野球における実践。いずれ働く学生みんなに読んで欲しい。

ルポ電王戦：人間 vs.コンピュータの真実

松本博文 著／NHK 出版 796//Ma81

将来、人間の仕事の多くが機械に置き換えられるといわれている。例えば車の運転も自動化される見通しと言えばその現実味がわかるだろうか。そんな未来の現実に関心を持って矢面に立っているのがプロの将棋棋士であり、彼らは機械学習により格段に進歩した人工知能と対決しているが、旗色は良くない。機械が人間を上回る将来、人間は何を学んでどう生きるべきかの示唆を与えてくれる良書。



理学部化学科 竹村哲雄先生

パンセ 1,2 巻

パスカル 著／前田陽一,由木康 訳／中央公論新社
135.25//P26//1,2

国語の教科書にも載っていた「人間は考える葦である」など、よく引用されるあの数学や科学の天才が書いた断片的な思想を集めた本です。読んだ人も多いと期待しますが、まだなら是非最後まで全部読んでみてください。若い諸君の人生観が深まるかもしれません。実際に君達の年頃に僕が読んだのは、中央公論社「世界の名著」のパスカルでした。



小さな王子さま

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ 著／山崎庸一郎 訳
／みすず書房 953//Sa22

冒頭で「昔子供だった頃の大人に」と友人宛に言っています。僕の経験では、ちょうど作中にあるように話題にするのがためらわれる位、よく分からないので途中で投げ出したという人が多数派で、それ以上話が進まないことが多いです。読めばもしかしたら、君も失われた何かを取り戻すことができるかもしれませんよ。実際に君達の年頃に読んだのは岩波書店の内藤濯訳「星の王子さま」でした。



理学部化学科 横山文郎先生

二重らせん : DNA の構造を発見した科学者の記録 (ブルーバックス B-1792)

ジェームズ・D・ワトソン 著／講談社 408//B59//1792

DNA の二重らせん構造は、20 世紀最大の研究成果の 1 つであり、今話題の iPS 細胞、STAP 細胞の研究もその延長上にあります。本書は、若い平凡な研究者のワトソン、クリックがどのようにして二重らせん構造にたどり着いたかの研究者本人が書いた物語であり、若い研究者に夢を与える本です。



薬学部薬学科 荻原政彦先生

セレンディピティと近代医学

：独創、偶然、発見の 100 年

モートン・マイヤーズ 著／小林力 訳／中央公論新社

490.2//Me95

本書には、この 100 年間の医学(薬学)の進歩に、セレンディピティがどのように貢献したかが書かれています。医学の発見史上、有名なエピソードが数多く記載されており、読者は特別な予備知識がなくても、気軽に読み始められます。



薬学部薬学科 谷覺先生

人と薬の羅針盤

吉岡ゆうこ,ネオフィスト研究所 編著／株式会社 じほう

499.02//Y92//谷

薬の歴史が古代からキリスト教が始まるまでの期間、まとめてある。豊富な写真が理解を助けてくれる。



薬学部薬学科 武内智春先生

線虫の研究とノーベル賞への道

: 1ミリの虫の研究がなぜ3度ノーベル賞を受賞したか
大島靖美 著／裳華房 483.73//077

ノーベル賞を受賞した「プログラム細胞死」「RNA 干渉」「緑色蛍光たんぱく質」などの発見の経緯などが記されており、単純に科学の発展の歴史の読み物としてためになるだけでなく、同時に分子生物学や細胞生物学の勉強にもなる本かと思えます。



薬学部や理学部の学生にとって勉強になる読み物というだけでなく、ノーベル賞という一般に広く知られた賞を題材としておりますので、もしかすると文系の学部の学生さんたちにとっても手に取りやすく、教養を深めるために役立つかもしれません。

薬学部医療栄養学科

松本明世先生、真野博先生

地域食材大百科 1-15 巻

農文協 編／農山漁村文化協会 596//N97//1~15

「川越いも」と呼ばれる「紅赤(サツマイモ)」や「下仁田ネギ」など、日本各地の伝統的な食材が紹介されています。自分が生まれ育った地域や、今生活している地域のおもしろい食材を探してみよう！



薬学部医療栄養学科 真野博先生

忘れられた日本人

宮本常一 著／未来社 380.8//Mi77//10

宮本先生は、私の恩師の恩師です。歴史には名前を残さない一人一人の住民が、懸命に生きた時代の記録です。一人の力は弱くとも継続し、努力すれば大きな成果がえられるということが分かります。

職漁師伝：溪流に生きた最後の名人たち

戸門秀雄 著／農山漁村文化協会 664.2//To28

日本各地の職漁師に関する興味深い話を取材という形かたちでまとめてあります。食文化、民俗学、地域、河川環境、民具に興味のある皆さんには読んでほしい本です。特に、最後は、高麗川の「最後の川漁師」の話など貴重な内容が書かれていますので、高麗川プロジェクトに関わる皆さんにとっては必読書です。



語学教育センター 高嶺エヴァ先生

外国語上達法

千野栄一 著／岩波書店 807//C47

千野栄一さんは東京外語大学で教授・和光大学で学長を務められた方で、語学の達人と言われた方です。30年ほど前に書かれた本ですが、語学習得のやる気にさせ、エッセイのような読み物としても面白い本です。

語学教育センター 高橋久美先生

神曲〔完全版〕

ダンテ 著／平川裕弘 訳／河出書房新社 971//D39

13～14世紀イタリア詩人ダンテの傑作。フレンツェの政争や、キリスト教の考え方など、私たちには分かりにくい部分もありますが、地獄へと下っていく主人公につき従っていけば、目の前にくり広げられる光景は圧巻です。



イリアス 上・下

ホメロス 著／松平千秋 訳／岩波書店

991//H83//1-2

ホメロス作とされる『イリアス』は、『オデュッセイア』とならび、西欧文明の最古の古典文学です。国籍を問わず、西洋の人々の想像力のベースに入っています。トロイア戦争(古代ギリシア)末期、有名なアキレウスが主人公の一人です。



オデュッセイア 上・下

ホメロス 著／松平千秋 訳／岩波書店

991//H83//1-2

『イリアス』の続編ですが、雰囲気ガラッと変わり、智将オデュッセウスの帰国までの10年間の冒険譚です。宮崎駿『風の谷のナウシカ』のヒロインの名は、『オデュッセイア』に登場するナウシカア姫に由来しています。



短期大学ビジネス総合学科 渋井二三男先生

日本をダメにしたB層用語辞典

適菜収 著／講談社 304//Te31

現在、特に我が国を取り巻く、活力のない平和な日本を、鋭く新進の哲学者が論じていますので、是非熟読をお薦めします。



ゲーテの警告：日本を滅ぼす「B層」の正体

適菜収 著／講談社 304//Te31

天才哲学者でもあるゲーテが、深遠な、あるべき人間の時空を超えた理性について、警告しています。現代に生きる者の立つ位置が、明確になる気になります。



ニーチェの警鐘：日本を蝕む「B層」の害毒

適菜収 著／講談社 304//Te31

人間の強い・弱い心理を、あらゆる角度・視点から指摘し、現代の日本人にも通用する警鐘を鳴らし、私たちの心に響きます。

